



対人援助職というのは？



A. 人を援助・治療・指導する仕事のことですね。

対人援助の仕事にはいろいろな職種があり、いろいろな分野があります。
おしなべて言ってしまうと、人間は人との関わりの中で生きている動物なので、どのような職種であつても究極的には「対人援助職」と表現できるかもしれません。
もう少し狭い意味では「対人援助」は「援助の必要な人を援助する」という仕事になります。

医師、歯科医師、看護師、助産師、保健師、[PT](#)、[OT](#)、[ST](#)、救急救命士、SW、心理士、歯科衛生士、視能訓練士、鍼灸師などの医療や保険に関わる人たち。
教員、[児童指導員](#)、カウンセラー、保育士、介護士、手話通訳者、[相談支援員](#)など教育や福祉にかかわる人たち。
裁判官や弁護士、検察官、警察官、消防士など公務についている人たち。

まだまだ挙げられると思いますが、こころへんにしておきます。

見てもらえば一目瞭然ですが、援助の必要な人に実際に関わって援助をしている人のことを、対人援助職、と呼んでいるのですね。
[放課後等デイサービス](#)や[児童発達支援](#)で子どもと関わっている人も、もちろん対人援助職、ということになります。
とてもやりがいを持てる仕事ですが、やはりメリットとデメリットの両方が存在します。

メリットとしては、とても感謝される仕事、ということがまず挙げられると思います。
自分にしかできない仕事でもあり、他者から求められる仕事でもありますね。
人に直接アプローチする仕事なので、必然的に実感できる回数も多くなる傾向があります。

デメリットとしては、なんとかしてあげたい、という気持ちに振り回されてしまって、バーンアウトしてしまう。
頑張るのは本人なので、支援者である自分がどれだけ頑張ってもその成果と直接は結び付かない。
普段なら踏み込まないような他者の間にまで触れなければいけない、といったところでしょうか。

「援助する側」と「援助される側」のパワーバランスの均整がとれているときは問題は起こりにくいとされているの。

これが「援助する側」に大きく動いてしまうと依存が生まれたり虐待につながってしまうことになりがちですね。

「援助される側」に大きく傾いてしまうと、燃え尽き症候群を引き起こしてしまったり、話を深く聞かなければいけないことでしんどい思いをしてしまうことにつながります。

いろいろな角度から対人援助職、というものを見ることができますが、メリットもデメリットもどちらもよく見据えたうえで行動することが必要になりますね。

自分のメンタルケアも必要だし、他者に対する気持ちの持ちようや自分の仕事に対する倫理感も問われることになります。

毎日の対人援助の中で、いつでも最新情報にアップデートする準備をしていたほうが良いようですね。

対人援助の行動規範となるものに「バイスティックの7原則」があります。

アメリカの社会福祉学者であるバイスティックが提唱した相談援助技術の基本で、どのような心構えと姿勢であるべきか、を知ることによって世界が広がるかもしれません。

次回からひとつずつ紹介していきたいと思えます。

《MENU》

《幼児期の療育というのは？

個別化の原則とは？》

2023-05-29 掲載